

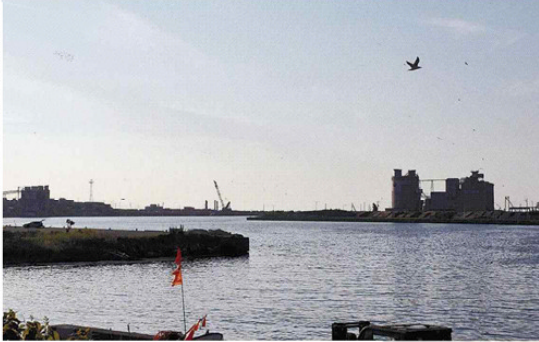


年 組 名前

道新でワークシート

ウニ餌に再利用 水産業と両立狙う

脱炭素化に向けてコンブ養殖などの実験が行われる留萌港



【留萌】市は脱炭素社会の実現に向け、海藻が吸収する二酸化炭素「ブルーカーボン」の実証実験に着手する。留萌港内に専用区画を整備し、二酸化炭素吸収を目的にコンブの養殖を始める。ウニの身入りをよくするためコンブを餌として利用する実験も進め、脱炭素と水産業発展の両立を目指す。

(吉川幸佑)

留萌港で市、ブルーカーボン実験へ コンブ育ててCO2吸収

ブルーカーボンは、コンブなどの海藻に吸収された二酸化炭素を指し、地球温暖化対策として近年、国際的な注目を集めている。留萌振興局によると、ブルーカーボンのためのコンブ養殖は留萌管内で初めての取り組みという。

市は国の脱炭素社会の実現に向け、波がなく、しけにも強い大型の留萌港に着目。実験では、南防波堤付近の海中にコンブの養殖用ロープを今月下旬にも設置する。長さ300メートルのロープにコンブの種を植え付けて生育調査を始める。コンブによる二酸化炭素吸収量の調査は繁茂が進むとみられる来春から取り組む。

また、コンブの繁茂時期に合わせて周辺の海底にキタムラサキウニを放流。枯死したり、海底に落ちたりしたコンブを餌として再利用する。ブルーカーボンの取り組みを推進する道水産林務部総務課は「吸収される二酸化炭素の枠の販売まで進めば、道内でも先進的な事例となる」と期待する。市は脱炭素化とウニの安定的な漁獲の実現を目指し、担当者は「ハードルが高いが、漁業者の所得向上にもつながる」と意気込む。

2022年8月20日（土）朝刊 留萌・宗谷版 14ページ（記事は再編集しています）

①留萌港に昆布を養殖することで、どのようなよいことがあると考えられていますか。2つ書きましょう。

・
・

②SDGs達成のために、「雪や寒さ」「豊かな自然」など、北海道の気候や地形の特徴を生かした取り組みを考えてみましょう。